

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第四十一話

「新冠における郵便局の歴史」(要約文)

日高管内における郵便局の設置は、明治十八年に遡ります。当時は、現在の富川、厚賀、静内、三石、えりもなどに設置されました。新冠では、これらよりずっと遅れて明治四十一年に開局したのがはじまりとなります。場所は、現在の本町地区に置かれたといわれています。当初は、現在の市街地が高江と呼ばれていたことから、高江郵便局という局名でした。初代局長に堤荘三氏が任命され、郵便、為替、貯金等を取り扱ってきました。

大正から昭和初期にかけ、漁業や木炭製造の振興で節婦町における戸数が急激に増加したことにより、大正八年になると節婦に郵便局が移転しました。大正十五年には再び高江(現市街地)に戻りましたが、昭和三年にはまた節婦に移転します。

その後、新冠村役場の所在地である市街地に郵便局がないことが不便という声が上がリ、昭和十二年に高江郵便取扱所が開設しました。郵便、為替、貯金、年金、保険、恩給等の業務を行いました。昭和二十六年に新冠郵便局と改称、昭和二十八年には旧役場(現本町多目的交流

センター)の東側に移転します。昭和四十三年、業務拡大に伴って局舎の改築がなされましたが、建物の老朽化により平成七年に東町に移転新築され、現在に至っています。

また、新冠には市街地から離れて居住する地域住民のために、自治体が受託団体となり、郵政省が監督して郵便業務を行う簡易郵便局がありました。泉地区に設置されていた日高泉簡易郵便局が昭和二十四年に開設されたのをはじめ、万世簡易郵便局(昭和二十五年開設)、太陽簡易郵便局(昭和二十六年開設)、日高朝日簡易郵便局(昭和三十三年開設)などがあります。その他、昭和十一年の比字(びう)郵便取扱所からはじまる新和郵便局も長い歴史を誇ります。

現在は郵政民営化に伴い、集配業務が他町の郵便局に移管されるなど、国の情勢によって業務内容が以前とは変わってきていますが、地域と共に生きた昔ならではの郵便局を、なつかしく思う方も多いのではないのでしょうか。



昭和 14 年の高江郵便局

「冬道での交通事故防止」

- 天候・路面状況に応じた運転を
- スピードダウンと慎重な運転を
- 「急」のつく運転操作は危険
- シートベルトの全席着用

静内警察署

火災・救急出動状況		() かつこ内は前年同期	
区分	火災件数	救急件数	
11月	0件(0件)	31件(24件)	
3年1~11月	5件(2件)	298件(250件)	
交通事故発生状況		() かつこ内は前年同期	
区分	発生件数	死者	傷者
11月	1件(1件)	0人(0人)	1人(1人)
3年1~11月	8件(3件)	1人(0人)	8人(3人)

人のうごき

人口 5,264 人 (前月比 - 10 人)
 男 2,575 人 (前月比 - 3 人)
 女 2,689 人 (前月比 - 7 人)
 世帯 2,755 世帯 (前月比 - 2 世帯)

(令和 3 年 11 月末現在)